



年 組 名前

道新でワークシート



外国語通訳システムを使用した訓練をする職員

外国語の119番

通訳システムで訓練

【白老】町消防本部はタブレットに搭載された外国語通訳システムを使用し、外国語で119番があった際に対応する訓練を行った。

(斎藤佑樹)

白老町消防「聞き取れた」

システムは2018年に導入。アイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間(ウポポイ)」開業により外国人観光客が増加することを見込み、10月30日に実施した。職員約20人が参加した。町内在住の中国人が通報者役を務め、通報を受けた職員はシステムを起動して

通訳センターに電話をつなぎ、センターを介した3者通話で現在地や病状を聞き取る手順を確認した。訓練に参加した小坂吉晃通信指令員(26)は「初めてなので多少のロスはあったが必要な事項をうまく聞き取ることができた」と話した。

2020年11月5日 夕刊 地方版(苫小牧・日高)2ページ(記事は一部再編集しています)

- ①どの自治体(じちたい)の消防(しょうぼう)本部の話題ですか。
- ②この町では、119番通報(つうほう)の外国語通訳(つうやく)システムは、いつから利用(りよう)されていましたか。
- ③どうして、外国人からの通訳(つうやく)が増(ふ)えたと見込(みこ)んでいるのですか。